



日本共産党市会議員

館田るみ子活動だより

第55号

二〇一四年七月
日本共産党青森地区委員会
青森市中央三丁目二一―十五
TEL 七七七―七二四一
市役所内 TEL 七二二―八九〇四

低床バス、県病・市民病院への直通便を 高齢者・障がい者にやさしいバス交通を



壇上から質問する館田議員

館田るみ子市議が西部地域の皆さんにバス交通についてのアンケートをお願いしたところ、493名の方がアンケートに答えて下さいました。一番多かったのが「高齢者や障がい者にやさしい低床バスを」次に多かったのは「県病や市民病院までの直通便を増やしてほしい」という要望でした。主な移動手段は、バスが一番多く、次に自分が運転する車でした。そして、車が運転できなくなった時の交通手段の一位はバスでした。

「交通戦略」は立ち止まり再検討

青森市は利用者の少ない赤字路線を民間の運行

に切り替え、黒字の中心部分を市営バスが運行するという交通戦略を進めてきました。バスからバスに「乗り継ぐことへの強い抵抗感にこのまま進めていけばバス交通の混乱が予想される」と路線の再編を立ち止まっています。

市民が必要としている公共交通を

館田市議の質問で、民間会社の運行する市民バ

スは、低床バスは一台だけだったことも明らかになりました。館田市議は、アンケートの結果を紹介しながら「市が進めてきたバス戦略は市民の願いに逆行する方法だった」「バスは、車を運転できない高齢者や子ども、障がい者にとってはなくてはならない移動手段であり、高齢化が進んでいけば、身近なバス交通の役割はいっそう大きくなることは明らかだ」と指摘し「高齢者が気軽に外出し、健康増進

になれば、自治体が負担する医療費負担が少なくなり、また商業、観光等も活性化するという総合的な効果が生まれると言われている。高齢化社会の公共交通を考える場合、大事な視点でないか」と青森市がめざすべきバス交通のあり方について市の考えをただし「費用対効果の考えでなく、市民が本来に必要としている交通網にしていくなかで」と求めました。最後に再検討の際には「100円バスの導入」

市営バスの低床バスは45両(導入率30・8%)。今年は15両導入予定で、今後も導入していくと答弁がありました。

笹森沼のベンチ修繕される

三内と石江の間にある笹森沼の周りには、ベンチ付きの遊歩道が整備されていて、毎日多くの人が散歩を楽しんでいます。ベンチが壊れて座れないという訴えが寄せられ、調査をしたら、グラグラして座れないベンチが8基もありました。

浮き島も老朽化のため撤去されています。館田市議は、サギなどの水鳥がいなくなり、野鳥も少なくなったので、浮島が必要だと求めています。



アンケートのご協力ありがとうございました。

設問1 移動手段としている主な乗物

バス	188名
家族の車	116名
マイカー	91名
タクシー	52名
電車	25名
その他	21名
合計	493名

設問2、マイカーを運転出来なくなった時の主な乗物は何ですか。

バス	154名
家族の車	55名
タクシー	48名
電車	34名
その他	6名
合計	297名

設問3 バス交通に望むことは何ですか。(複数回答可)

- 1、低床バスなど高齢者・障がい者にやさしいバス 203名
- 2、県病・市民病院の直通便を増やしてほしい 150名
- 3、高齢者のバス無料制度の復活 140名
- 4、ワンコインでの地域循環バス 102名
- 5、青森駅・新青森駅行きのバス 82名

ごみの有料化を主張する自民・公明議員 市と市民・事業者が力を合わせて、発生抑制と分別を

環境と資源を 守るために

かつて経験したことがないようなゲリラ豪雨やたつまきなど、異常気象の原因は、地球温暖化によるものだと言われています。自治体の施設のなかで、温室効果ガスを一番多く排出しているのが、ごみの焼却施設です。ですから、環境や資源を守るために燃やすごみを減らさなければなりません。

館田市議は、資源や環境を守る問題だという視点からその他のプラスチックを燃やさず、分別・リサイクルするよう求め、現在、市民の皆さんの協力のもとに分別収集が行われています。

ごみの減量化が 想定どおり進まず 余剰ごみ発生

市は、老朽化がはげしい梨の木清掃工場に代わって、来年4月から最終処分場の隣に建設中の新ごみ処理施設で焼却することにしていましたが、ごみの減量化が想定どおり進まず、このままでは処理できない余剰ごみが発生することがわかり、脱退を決めていた黒石地区清掃施設組合に、引き続



その他のプラ収集日

き委託することになりました。

館田市議は「これまでの取り組みと市民の努力でごみの減量化とリサイクルがどこまで進んだのか、ごみ処理に伴って排出されてきたCO2削減がどのくらい減らすことが出来たのか、市民に説明をし、今、燃やすごみを早期に減らさなければならぬ理由を市民の皆さんに理解してもらい、ごみを減らす努力を市とともに続けてもらうようお願いしなければならぬ」と市の姿勢をただしました。

ところが、自民党や公明党・市民クラブの議員は、ごみを減らすためには有料化すべきだと言いつつ、24日の閉会日に議員提案の「指定ごみ袋制度の実施」等を求める決議を賛成多数で採択してしまいました。

継承者が不要の 合葬墓を青森市にも

少子高齢化や核家族化などで、お墓の継承が困難な

家族が増えていきます。一カ所に多くの人の遺骨を埋葬する合葬式墓地という新しい形の墓地を整備する自治体も増えてきました。市がおこなったお墓に関する調査でも「子孫による管理が不要な合葬墓を利用したいと考えているか」との問いに三分の二の人が利用したいと答えています。

館田市議が「経済的理由やさまざまな理由から埋葬できずに何年も遺骨を抱え、困っているという声もよせられている。本市にも合葬墓の整備を」と求めたところ、鹿内市長から「現在、先進自治体の調査を行うなど、事業化の場合の課題を整理している」と答弁がありました。

有料化しても 「ごみは減らない」

館田市議は「減量化が想定通り進まなかったからと言って、有料化しても、ごみの減量化が進まないことは他都市の例からいっても明らか」と有料化を主張する他党議員を批判し、ごみの20%減量を目指そうと、80%までの指定袋を無料にして取り組んだ新潟市がさらに減量を進めようと全量有料化に切り替えてしまったことを紹介し「指定袋の導入もごみの減量化を市民に押し付けるもの。とりわけ、本市は、喫緊の課題となつて

減らすために、減量努力をしてきた市民の皆さんに更なる減量を求めることになるわけですから、有料化や指定袋などの強制的な手段によるのではなく、市民の皆さんによく理解してもらえるような丁寧な説明で、市とともにごみの減量活動への参加・協力を続けてもらうよう働きかけていくところを、今、求められている」と述べて、ごみの有料化反対の立場から議員提案の『ごみの減量化推進に関する決議』に反対を表明しました。

有料化につながる指定袋導入に賛成したのは、自民・公明・市民クラブ・社民・無所属の議員

油川

岡田橋の
歩道橋
設置を早く

市は、これまで岡田橋の歩道拡幅が必要だと認識し整備すると答弁をしてきました。

今議会での館田市議の質問に「岡田橋は架け替えでなく修繕により長寿命化を図ることになったので、新たに歩道橋を設置することになると考えている」と答弁がありましたが「他の道路整備事業の状況から時期を検討していく」と同じ答弁を繰り返しました。

館田市議は「都市計画道路3・4・16号油川岡町線も他の街路整備事業の実施状況を見極めたうえで整備時期を検討したいと言ってきた。少子高齢化の時代に立派な道路ばかり出来ても、費用対効果が期待できるのか」「いつ完成するか分からない道路に多額の費用をかけるくらいなら、交通安全対策としての岡田橋の歩道橋設置を急ぐべき」と提案しました。桜庭都市整備部理事は「ご指摘の3・4・16号については、見直しを検討している」と答弁がありました。

石江

ロードミラー
の設置を

松丘保養園前バス停付近の県道鶴ヶ坂千刈線に出る時に右側から来る歩行者や自転車がみえず事故が起きています。ロードミラーの設置を求めたところ、「七月上旬から行う交通診断において、現地で関係者立会いにより現場を点検し、設置について検討して参りたい」と答弁がありました。後日、七月十七日の午後に行うと連絡がありました。

浜通りの 側溝の改良が 始まりました

るみ子事務所を設置させて頂いた油川・館町町の浜通りで、側溝改良工事が始まりました。何年も前から要望を続けてきた所です。

